

ブルガリア月報 [2018年9月]

平成30年10月
在ブルガリア日本国大使館

概観

【二国間関係】

- ・27日、第73回国連総会が行われているニューヨーク国連本部において日ブルガリア外相会談が実施された。

【内政・社会】

- ・3日、新たな政治シーズン開始に際し、ラデフ大統領によるメッセージが発出された。
- ・20日、新たな運輸・IT通信大臣、地域開発・公共事業大臣、及び内務大臣が任命された。

【外 政】

- ・4-6日、コヴィンド・インド大統領がブルガリアを訪問した。
- ・13日、ブリタ・モロッコ外務大臣はブルガリアを訪問し、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣等と会談した。モロッコの外務大臣によるブルガリア訪問は約40年ぶり。
- ・24-28日、ボリスフ首相及びザハリエヴァ副首相兼外務大臣は第73回国連総会に出席し、同会合の枠組みにおいて、複数のバイ会談を行った。

【経 済】

- ・7日、ブルガリア統計局は第2四半期のGDP成長率を3.4%と発表した。
- ・10月から天然ガス価格が値上げされることに伴い、地域暖房及び温水の価格が2%から9%程度値上げされる見込み。暖房の値上げ幅はソフィアで9.97%、プロヴディフで8.57%となる見込み。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

二国間関係

◆日ブルガリア外相会談

- ▶27日、第73回国連総会が開催されているニューヨークの国連本部において、日ブルガリア外相会談が行われた。日ブルガリア外相会談は、2011年以来7年振り。
- ▶河野外務大臣とザハリエヴァ副首相兼外務大臣は、2019年の日本・ブルガリア「3つの周年」に向けて、二国間関係を更に強化していくために協力することで一致した。また、本年1月の安倍総理のブルガリア訪問の際に表明した西バルカン

地域への協力を、具体的に一層進めて行くことで一致した。更に、両外務大臣は、朝鮮半島の非核化に向けて、引き続き、国際社会が安保理決議の完全な履行を確保することの重要性を確認した。

◆渡邊国際体操連盟会長のブルガリア訪問

- ▶12日、渡邊守成国際体操連盟会長は、ソフィアで開催された新体操世界選手権に際してブルガリアを訪問し、ボリスフ首相と会談した。なお、渡邊会長はラデフ大統領への表敬訪問も行った。
- ▶ボリスフ首相との会談の中心テーマは、ブルガ

リア政府によるスポーツ支援であった。

▶渡邊会長は、自分はブルガリア及び世界レベルにあるブルガリア新体操の良き友人であるとし、政府の支援を受けているブルガリア新体操は大きな成功を収めるだろうと述べた。

内政

◆ラデフ大統領による新たな政治シーズン開始に際するメッセージの発出

▶3日、ラデフ大統領は、新たな政治シーズン開始に際し、国営テレビを通じて国民向けメッセージを発信した。概要は次のとおり。

(1) 新しい政治シーズンが開幕する。ブルガリア法人登記システムの故障や、(キプロス資本のオリンピック社の破産による)国民20万人の自動車保険の喪失は、単なる事件ではなく、国家のほころびである。合法性及び透明性は投資のための前提条件である。

(2) 不公平性、貧困、人口危機及び不法行為がこの社会の根本的問題を成している。国はスキャンダルに溺れており、閣僚の辞任は解決ではなく、責任からの逃避である。

(3) 新たな選挙により新たな展望が開けることはない。連立政権が社会の最も深刻な問題に焦点を当てるのが、責任ある態度というものである。

◆3閣僚の交代

▶8月31日、ポリソフ首相は、同月25日にスヴォゲにおいて発生したバス事故(犠牲者17人、負傷者20人以上)を理由に、モスコフスキ運輸・IT通信大臣、ナンコフ地域開発大臣及びラデフ内務大臣の辞任を要求し、3大臣は辞表を提出した。

▶9月20日、国民議会は上記3大臣の辞任、及び右に伴う新大臣の任命を承認した。新大臣3名は次のとおり。

- ・ロセン・ジェリヤスコフ運輸・IT通信大臣
- ・ペテヤ・アヴラモヴァ地域開発・公共事業大臣
- ・ムラデン・マリノフ内務大臣

統計

◆アルファ・リサーチ社世論調査

▶アルファ・リサーチ社は、2018年第3四半期の世論調査結果を公表した(調査期間:2018年9月23日~30日、回答者1,027名)。調査結果概要は以下のとおり。

▶調査結果要約

・EU議長国終了後、外交政策を通じた政府の勢いは失われ、連立与党内のスキャンダルや統一愛国者(UP)内の非難の応酬、小反芻獣疫の発生、法人登記システムの故障等の影響により、政府の対応能力に対し世間の厳しい目が向けられた。政府支持率は1%低下し19%となり、同様の傾向が首相自身の支持率(33%)にも表れた。社会党(BSP)は伝統的支持者の上限に相当する従来の支持率を保っている。

・閣僚に対する支持率に大きな変化はないが、唯一、スポーツの3大世界大会のホストを務めたことで、クラレフ青年スポーツ大臣は閣僚の中で最も高い支持率を得る結果となった(指標上はドンチェフ副首相に次ぎ2位)。

・政党別支持率については、与党GERBは前回から支持率を2.3%下げ、22.2%。BSPの支持率は前回と同水準(19.7%)に留まり、両党の支持率差は2.5%へと縮小。これはGERB支持率の低下によるものであり、BSPの支持率は変化なし。

▶主要調査項目の調査結果(括弧内は本年6月時点の数値)

[国家機関別支持率]

ア 大統領

支持 52% (54%)

不支持 17% (11%)

イ 政府

支持 19% (20%)

不支持 43% (41%)

ウ 首相

支持 33% (37%)

不支持 36% (35%)

エ 国民議会

支持 12% (14%) (37.2%)
 不支持 51% (54%)

[世論に大きな影響を及ぼした出来事]

大規模な交通事故	51%	(16.4%)
天然ガス価格の高騰	36%	
小反芻獣疫の発生に関する対応	32%	(4.5%)
政府と大統領間の緊張	31%	
閣僚の交代	28%	(23.3%)
統一愛国者内の紛争	25%	(11.1%)

[閣僚の活動に関する指標（その活動を成功と評価した人々の割合と、不成功と評価した人々の割合の差で表される）]

ア 上位6名

ドンチェフ副首相	20.3	(19)
クラレフ青年スポーツ大臣	19.5	(6.6)
ザハリエヴァ副首相兼外相	8.0	(7.5)
パヴロヴァEU議長国担当大臣	2.9	(9.4)
パノフ文化大臣	2.4	
カラカチャノフ国防大臣	1.6	(3.8)

イ 最下位5名

ペトコフ労働社会政策大臣	-11.4%
アナニエフ保健大臣	-12.5 (-13.9)
ポロジャノフ農業食糧大臣	-12.6
カラニコロフ経済大臣	-13.0 (-9.2)
ツァチェヴァ法務大臣	-20.0 (-17.9)

[今選挙が行われた場合に投票する政党]

GERB	22.2% (24.5%)
社会党	19.7% (20.1%)
統一愛国者	4.7% (5%)
権利と自由のための運動	6.6% (4.9%)
ヴォリヤ	2.0% (2.2%)
民主的ブルガリア	2.9% (2.2%)
その他の政党	4.8% (6.1%)
投票しない	36.6% (34.6%)

[党首別支持率]

ボリソフGERB党首	32.8%
------------	-------

カラカチャノフVMRO党首	23.4%	(25.2%)
シメオノフ救済国民戦線党首	11.1%	
シデロフ・アタツカ党首	5.5%	
ニノヴァ社会党党首	2.2%	
マレシュキ・ヴォリヤ党首	0.5%	(11.1%)
カラダヤ権利と自由のための運動党首	5.4%	(5.5%)

外交

1. 第73回国連総会

◆ボリソフ首相の第73回国連総会出席

▶24-28日、ボリソフ首相は第73回国連総会に出席し、同会合の枠組みにおいて複数のバイ会談を行った。

▶エルシーシ・エジプト大統領との会談においてボリソフ首相は、エジプトはブルガリアにとって中東・アフリカ地域における最も重要な貿易・経済パートナーであり、ブルガリアはエジプトとのエネルギー分野における協力に関心があると述べた。同首相は、ブルガリアはエジプトをガスの供給源と考えており、エジプト・ギリシャ・キプロス間天然ガス計画に参加することにも関心があると付言した。

▶エルドアン・トルコ大統領との会談において、両者は、近年の二国間経済における観光、エネルギー及び運輸分野の活性化を高く評価した。ボリソフ首相は、トルコは移民・難民及びテロ対策の重要なパートナーであるとした。エルドアン大統領は、本年3月26日にヴァルナで開催されたEU・トルコ首脳会合への謝意を表明し、同会合がアンカラ・ブリュッセル関係の発展に前向きな方向性を与えたと評価した。

▶グリアOECD事務総長との会談においてボリソフ首相は、ブルガリアはOECDメンバーシッ

プのため最大限急いで準備を行うとし、できるだけ早期にOECD加盟交渉開始の具体的な日程を獲得できることを願うと述べた。グリア事務総長は、ブルガリアのOECD加盟立候補を支持するとし、加盟交渉に向けて今日まで行ってきた準備を歓迎するとした。

▶ポンペオ米務長官との会談においてボリスフ首相は、ブルガリア及び米国は安全保障・国防分野において、二国間及びNATOの枠組で確固とした関係を築いているとした。同首相は、ブルガリア軍の近代化における米政府からブルガリアへの支援を評価するとした。

▶ボリスフ首相は、ポンペオ米務長官に対し、NATOの枠組みにおける約束を確認しつつ、ブルガリア政府は2024年までに国防費をGDP2%に段階的に引き上げる国家計画を確認したと述べた。また同首相は、米投資の誘致はブルガリア政府の基本優先事項であり、特にIT、機械製作、電気工学及び電子工学分野に関心が高いと述べ、ブルガリアの投資環境について説明した。

◆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣の第73回国連総会出席

▶26-28日、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣は第73回国連総会に出席し、同会合の枠組みにおいて複数のバイ会談を行った。

▶ラバニ・アフガニスタン外務大臣との会談において、ラバニ大臣は、アフガニスタンの復興へのブルガリアの支援に関し謝意を表明した。ザハリエヴァ大臣は、アフガニスタン大統領がタリバンとの交渉を開始したことに賞賛の意を表明した。

▶ムハンマド・カタール外務大臣との会談において、両大臣は湾岸諸国及びEUの政治情勢、米国のイラン核合意離脱を含む国際問題について話し合った。ザハリエヴァ大臣は、本年3月のタミーム・カタール国首長のブルガリア訪問に続く二国間関係のアプローチに謝意を表明した。両大臣は、具体的プロジェクトへの取組を継続することを確認した。

▶ブルガリア、ギリシャ、ルーマニア及びクロア

チアの4か国外務大臣会合が開催され、西バルカン諸国の欧州統合を含む国際的課題についての議論が行われた。国連総会において本フォーマットの会合が開催されるのは2回目である。

▶ザハリエヴァ大臣は、西バルカン諸国とともに取組み続けることが大変重要であると呼びかけた。コジラス・ギリシャ外務大臣（当時）は、4大臣がそろってマケドニア及びアルバニアを訪問し、両国への政治的支持を表明することを提案した。

2. 対バルカン諸国関係

◆ボリスフ首相のモンテネグロ訪問

▶3日、ボリスフ首相はモンテネグロを訪問し、マルコビッチ・モンテネグロ首相と会談した。

▶ボリスフ首相は、バルカン諸国のEU統合についてかなりの結果を残したとし、モンテネグロに大きなチャンスがあることを確信するとした。同首相は、モンテネグロ政府に対し、EU加盟交渉プロセスの2チャプターを終了させるべく、更に注力するよう呼びかけた。マルコビッチ首相は、西バルカン諸国の欧州統合に対するブルガリアの努力に謝意を表明した。

▶ボリスフ首相は、バルカン諸国の経済的キャパシティに言及し、国際金融機関がバルカン諸国の計画に拠出する資金の返済に通行料システムからの収益を充てること、バルカン地域における道路通行料を一律とすること等の構想を語った。

▶ボリスフ首相は、ブルガリア及びモンテネグロが共同で電力輸送会社を立ち上げる計画について明らかにし、今後数か月以内にそのような機構を設立するための経済フォーラムが組織されることを願うとした。同首相は、本計画は、参加意思のある国が自由に参画できるバルカン全体の計画になると付言した。

◆ゴイコビッチ・セルビア議会議長のブルガリア訪問

▶11日、ゴイコビッチ・セルビア議会議長は、カラヤンチェヴァ国民議会議長の招待によりブルガリアを公式訪問し、同議長と会談した。なお、

ゴイコビッチ議長は、ラデフ大統領への表敬訪問も行った。

▶カラヤンチェヴァ議長は、ブルガリアはEUメンバーとしての経験を生かし、法整備の面でセルビアへの支援を行いたいと述べた。同議長は、ブルガリアEU議長国期間中に、セルビアのEU加盟交渉のうち2章が新規に開始されたことを歓迎した。また同議長は、セルビアのブルガリア人マイノリティ問題及び同問題に関するブチッチ・セルビア大統領のコミットメントに言及した。

▶ゴイコビッチ議長は、セルビアはEUへの道のりに関し、ブルガリアを信頼していると述べた。同議長は、ブチッチ大統領によるブルガリア人マイノリティ問題へのコミットメントを再確認し、教育、メディア及び宗教団体に関する問題はすでに解決しているとした。更に同議長は、ブルガリア人マイノリティの地位向上に関する法律が近々施行されると述べた。

▶ゴイコビッチ議長は、カラヤンチェヴァ議長のセルビア訪問を招請し、セルビア議会における演説を提案した。

3. 二国間関係

◆ボリスフ首相のイスラエル訪問

▶4-5日、ボリスフ首相はイスラエルを訪問し、ネタニヤフ・イスラエル首相と会談した。ボリスフ首相は、本年6月にもイスラエルを訪問している。

▶ネタニヤフ首相は、ブルガリアがテルアビブからエルサレムに大使館を移転するよう呼びかけた。ボリスフ首相は、ネタニヤフ首相の要求をはぐらかす形で、ブルガリアは、駐エルサレム・ブルガリア領事のランクを総領事に格上げすると応じた。ボリスフ首相の発言は、本年6月の閣僚評議会における、2019年1月から駐エルサレム・ブルガリア名誉領事（イスラエル市民）を名誉総領事に格上げするとの決定を指していると思われる。

▶ボリスフ首相は、ブルガリア・イスラエル間の空路は1日5便程度あり、ブルガリア市民の便宜を図るため、イスラエル全土を管轄する名誉総領

事をエルサレムに置くと述べた。ネタニヤフ首相は本決定を「良い始まり」と評価した。

▶ボリスフ首相は、ネタニヤフ首相のブルガリア訪問を招請すると同時に、本年末までにブルガリアにおいて政府間協議が開催されることを期待するとした。

◆コヴィンド・インド大統領のブルガリア訪問

▶4-6日、コヴィンド・インド大統領はブルガリアを訪問し、ラデフ大統領及びボリスフ首相とそれぞれ会談し、ブルガリア・インド・ビジネスフォーラム出席、ソフィア大学における講演等を行った。

▶ラデフ大統領との会談において、両大統領は、今後数年で両国間の経済交流を2倍にするため、付加価値の高い分野におけるビジネスの連携強化に努めるとの意見で一致した。両大統領は今後、IT、原子力研究、宇宙研究、国防、製薬、農業及び観光を特に奨励するとした。

▶ラデフ大統領は、国連及び安全保障理事会においてインドが相応の位置を占めることを支持するとし、国連改革に際し、インドによる建設的対話、平和保持、善隣及びグローバル・テロリズム対抗の精神に基づく外交を高く評価した。

▶コヴィンド大統領は、ブルガリアがインドによる安全保障理事会の常任理事国への立候補を支持していることに対し、謝意を表明した。

▶両大統領の出席の下、以下の二国間文書への署名が行われた。

- ① 科学技術協力プログラム2018-2021
- ② 観光分野に関するMOC
- ③ ソフィア大学及びインド文化関係カOUNシル（ICCR）間のヒンドゥー語ICCRチェアの設置に関するMOU
- ④ ブルガリア投資庁及びインド投資庁間MOU
- ⑤ ブルガリア科学アカデミー原子力研究・エネルギー研究所及びインド原子力エネルギー・グローバルセンター間の原子力エネルギー協力に関するMOC

◆カシス・スイス外務大臣のブルガリア訪問

▶11日、カシス・スイス外務大臣はブルガリアを訪問し、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣と会談した。

▶カシス大臣は、スイスはブルガリアEU議長国を大変高く評価するとし、特に西バルカン諸国問題への評価が高いとした。更に同大臣は、西バルカン諸国問題において、ブルガリア及びスイスが積極的に協力すればするほど、西バルカン地域の将来は確かなものになると述べた。

▶ザハリエヴァ大臣は、スイスの結束資金支援によるブルガリア・スイス・プログラムを評価しているとした。同大臣は、ブルガリアのシェンゲン領域参加及びOECD加盟に対するスイスの支持に謝意を表明した。

▶ザハリエヴァ大臣は、二国間貿易は良好で成長しているが、ポテンシャルは更に大きいとした。カシス大臣は、スイスはブルガリアにおける第8位の投資国であるが、今後、投資分野においてより積極的な関係を構築するよう注力し、上位5か国に入ることを目指したいと述べた。

◆ブリタ・モロッコ外務大臣のブルガリア訪問

▶13日、ブリタ・モロッコ外務大臣はザハリエヴァ副首相兼外務大臣の招待によりブルガリアを公式訪問し、ザハリエヴァ大臣との会談及びヨトヴァ副大統領への表敬訪問を行った。モロッコの外務大臣によるブルガリア訪問は約40年ぶり。なお、ブリタ大臣は、ボリソフ首相及びカラヤンチェヴァ国民議会議長ともそれぞれ会談した。

▶ザハリエヴァ大臣は、ブリタ大臣の今次ブルガリア訪問は、経済交流、観光及び研究機関交流を活性化させるだろうと述べた。両大臣は、貿易・経済関係、アフリカ諸国におけるブルガリアの投資の可能性、政治対話の発展、及びモロッコ・EU間のより緊密な協力について話し合った。

▶ヨトヴァ副大統領とブリタ大臣との主要議題は移民・難民問題であり、同問題の根本的要因は武力紛争及び気候変動にあるとの意見で一致した。

ブリタ大臣は、同問題を克服するためには、すべての国による努力が必要であるとし、そのためモロッコは本年12月に移民・難民問題に関する大規模な国際フォーラムをマラケシュで開催するとした。ヨトヴァ副大統領は、ラデフ大統領の代理として、モハメッド6世モロッコ国王のブルガリア訪問を招請した。

◆ゲオルギエフ外務副大臣の韓国訪問

▶17-22日、ゲオルギエフ外務副大臣は韓国を訪問し、ジュ韓国議会副議長、チョ筆頭外務副大臣等とそれぞれ会談した。

▶ジュ韓国議会副議長との会談の議題は、ブルガリア・韓国の伝統的友好関係、北朝鮮の非核化、朝鮮半島の平和維持等であった。ジュ副議長は、核兵器の製造・使用の中止が未来を保障する唯一の方法であると固く信じており、外交を通じて危機から脱した文大統領の行政力を賞賛するとした。▶ゲオルギエフ副大臣は、ジュ副議長に対し、第3回南北首脳会談は、軍事的脅威という重荷を永久に捨て去り、朝鮮半島の試練に対して持続的努力を行うという決意を示していると述べた。

▶ゲオルギエフ副大臣は、チョ筆頭副大臣に対し、韓国はブルガリアにとって友好国であり、アジアにおける将来的に重要なパートナーであるとし、両国の貿易・経済関係拡大への期待を表明した。更に同副大臣は、朝鮮半島の非核化について、ブルガリアは外交手段による平和・安定の到達を望むとし、同地域の状況の平和的解決及び南北関係改善に関する韓国の努力を支持するとした。またゲオルギエフ副大臣は、チョ筆頭副大臣のブルガリア訪問を招請した。

◆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣の第1回女性外務大臣会合出席

▶21-22日、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣は、カナダのモントリオールで開催された第1回女性外務大臣会合に出席し、同会合のマージンにおいてケニア、インドネシア、パナマの外務大臣とそれぞれ会談した。

▶ジュマ・ケニア外務大臣との会合において、両大臣は、ブルガリア・ケニア共同ビジネスフォーラムの開催、ブルガリアIT起業の投資に関する取組等について話し合った。ザハリエヴァ大臣は、二国間貿易・観光の可能性、及びケニアにおけるハイテク、食品加工、エネルギー及び製薬分野のブルガリア企業による投資の可能性に言及した。

▶ルトノ・インドネシア外務大臣との会談において、両大臣は、バリ等へのブルガリア名誉領事館の設置について話し合った。ザハリエヴァ大臣は、二国間貿易のポテンシャルについて言及した。

▶サイン・マロ・パナマ副大統領兼外務大臣との会談において、両大臣はハイテク、イノベーション及び観光分野における二国間関係の活性化について話し合った。ザハリエヴァ大臣は、パナマが製薬業の中心になることを目指しているのであれば、ブルガリアのハイテク及び製薬業はパナマにとって有益であろうと述べた。

4. その他

◆第3回南北首脳会談に関するブルガリア外務省声明

▶25日、ブルガリア外務省は、「第3回南北首脳会談に際する声明」と題した以下のようなプレスリリースを発出した。

▶ブルガリア共和国は、韓国大統領による北朝鮮への歴史的訪問、及び北朝鮮において開催された第3回南北首脳会談を朝鮮半島の平和及び非核化への継続的努力における重要な要素として歓迎する。

▶今回の共同宣言は、信頼を強固にし、平和的な方法により現在の状況を脱するための継続的な外交努力を後押しするものと確信している。

▶これまでに到達した取り決めの遵守が、包括的で検証可能かつ不可逆的な北朝鮮の核・ミサイル計画中止、及び朝鮮半島地域の恒久的平和の確立に向けた重要な前進となることを願う。

経 済

1. マクロ経済

◆第2四半期のGDP成長率は3.4%

▶7日、ブルガリア統計局は本年第2四半期のGDP成長率が前年同期比で3.4%であったことを明らかにした。本年第2四半期のGDPは132億4900万ユーロ（名目）であり、一人当たりとすると1882ユーロであった。

◆今後の雇用で需要が高まる職種

▶11日の報道によれば、雇用庁が8月5日から9月5日までに行った雇用主2615人に対する調査で、そのうち67%の雇用主が今後12か月以内に新規雇用が必要であると回答していることが明らかになった。需要が高まる主な職種は事務所のマネージャークラス、会計士、グラフィックデザイナー、プログラマー等であるが、低技能職種でも電気技師、機械オペレータ、コンピュータ技師、機械技師、店員、コック、ウェイター、裁縫師、ドライバー等が必要となっている。

▶高技能職種は、機械、電気、建設エンジニア、IT専門家、会計士、教師、医療関係者、雇用人材マネージャー、プロジェクトマネージャー等が必要となっている。

◆ブルガリアのインフレ率は欧州2番目の高さ

▶17日のユーロスタットの発表によると、昨年8月から本年8月までのインフレ率はEU圏で2番目の3.7%であることが明らかとなった。最も高かったのはルーマニアの4.7%であり、EU平均は2.1%、ユーロ圏の平均は2%であった。

2. 経済政策、産業

(1) エネルギー関連

◆ベレネ原発への韓国企業の関心

▶4日付け国内報道によれば、イリエフ・エネルギー公社（NEK）総裁は韓国の投資家がベレネ原発への投資に関心を示している旨発言した。

◆ガスプロムとの天然ガス価格交渉

▶6日報道によれば、欧州委員会が露ガスプロムによる中東欧での天然ガス販売価格がEU競争法に違反していると認定している問題に関連し、イヴァノフ・エネルギー水規制委員長が国営ラジオに出演し、ロシアが9月末までにブルガリアと価格の再交渉に入る予定であることを言及した。

▶ガスプロムは世界における収入の約10%にあたる巨額の罰金を回避するため、ブルガリアを含む中東欧8カ国に対して市場価格を約束する見込みであるとした。

◆10月から暖房及び温水価格が値上げ

▶25日のエネルギー水規制委員会の会合で、18年第4四半期の天然ガス価格の値上げが議論され、ブルガリアは約14%の値上げを求めているが、同委員会としては最終消費者への8%の値上げに留めたい意向が明らかとなった。同委員会は、本年の原油価格と米ドル相場の上昇により、値上げ自体には賛成している。

▶天然ガス価格の値上げに伴い、暖房及び温水の価格値上げも見込まれており、26日の委員会の会合では、地域により2%~9%程度の値上げが見込まれたが、暖房については、ソフィアでは9.97%、プロヴァディフで8.57%、ブルガス、プレヴェン、ヴラツァ、ヴェリコ・タルノボでは4から6%程度の値上げとなる見込みである。10月1日に委員会が会合を行い、正式に値上げが決定されることになっている。

(3) 自動車

◆ブルガリア企業初の電気自動車製造

▶5日、ブルガリア企業が生産した初の電気自動車の完成披露式典が行われ、ポリソフ経済副大臣が出席した。本件電気自動車はシン・カーズ(Sin Cars)インターナショナル社が製造したものであり、オーナーのダスカロフ氏は、今回製造した車両は一般道路走行用であるが、自動車レース用及びコンパクトカーについても今後製造・輸出を予定しているとした。

▶ポリソフ副大臣は、ブルガリアにおいて、電気自動車及びハイブリッド自動車は6808台が登録されており、そのうち電気自動車は554台であるが、過去5年で600%の伸びを記録しており、電気自動車の製造はブルガリアの製造業の中で優先的な産業と考えているとした。

(3) その他

◆アフリカ豚コレラの発生

▶8月31日のパセフ・ヴァルナ県知事の発表によれば、県内プロヴァディア市近郊の村落でアフリカ豚コレラの発生が確認され、またブルガリア食糧安全庁も国立科学研究所が同ウィルスを確認したと発表した。これにより同村落を中心として3キロ圏内を保護地区、また10キロ圏内を監視地区と設定し、動物及び動物製品の取引が禁止された。

◆中国開発銀行による資金協力

▶8月31日、カラニコロフ経済大臣は、中国開発銀行でブルガリア案件の責任者であるWang重慶支店長と面会した。同支店長はブルガリア開発銀行との新しい貸付契約の協議でブルガリアを来訪しており、中国開発銀行はこれまでブルガリアで3億ユーロ相当の案件に支援を行っている。▶Wang支店長は、中国開発銀行はブルガリアを重要なパートナーと認識しており、ブルガリアに強い潜在力を感じていると述べた。両者はブルガリアの通信、農業、エネルギー、インフラといった重要な案件を支援することについて議論を行った。両銀行は2017年に8千万ユーロの貸付契約を行っており、更に本年7月にソフィアで開催された16+1及び一帯一路関係の会議において今後5年における1.5億ユーロの貸付契約を締結している。

◆今年のブドウの作柄

▶13日、ポロジャノフ農業食料大臣がブルガリア南部モギロボ村でブドウの収穫開始キャンペーンに出席し、今年のブドウの作柄はよく、糖度も

非常に高いと評価した。ブルガリアでのブドウの生産は15万から16万トンがワイン生産用であり、10万トンがラキヤ生産用、また5万トンがブドウ酢生産用である。またブルガリアには166軒のワイナリーが存在し、現在も15から18の新規参入ワイナリーが免許取得中である。

◆第4回中国CEEC（16+1）地方リーダー会議が10月に開催

▶26日、パヴロヴァEU議長国担当大臣は、ソフィアでLu Shan中国・中東欧諸国（CEEC）協力事務局次長と面会し、10月20日にソフィアで開催される第4回中国CEEC（16+1）地方リーダー会議について、及び16+1の枠組みで設立されるグローバル・パートナーシップセンターの準備状況について議論した。同会議については、地域の将来の協力のための具体的計画を議論する目的で開催されるものであり、1

6+1各国から、県知事や市長、各国における「16+1」コーディネーターその他ビジネス関係者が招待されることになっているが、ブルガリアに700人近い代表団が集まることが予想されている。

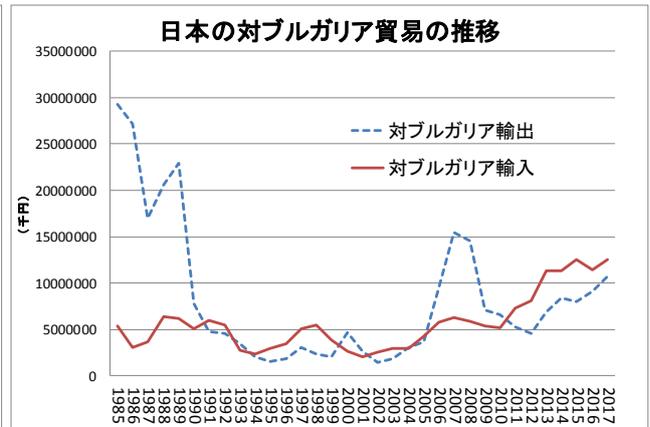
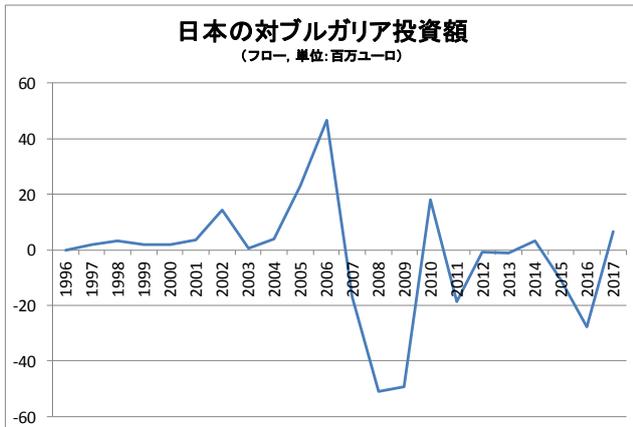
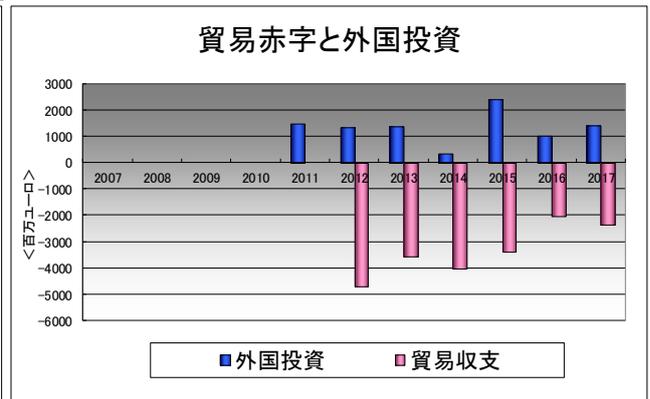
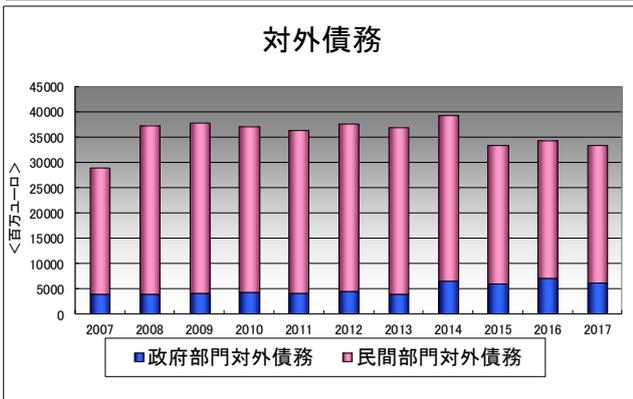
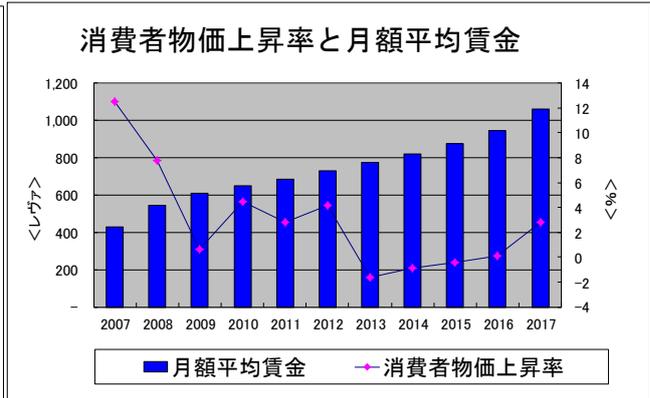
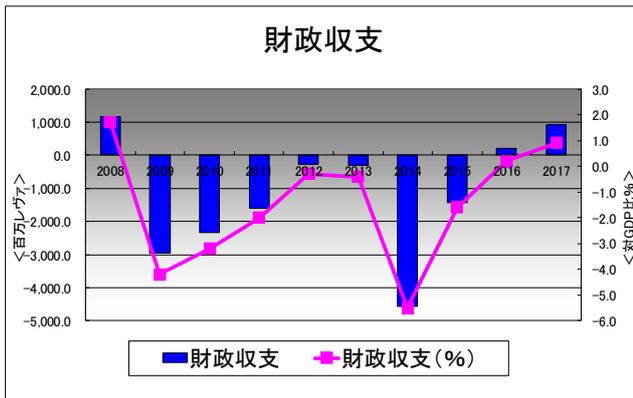
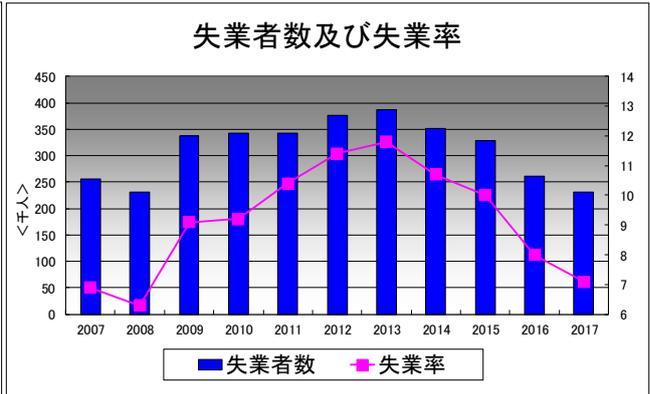
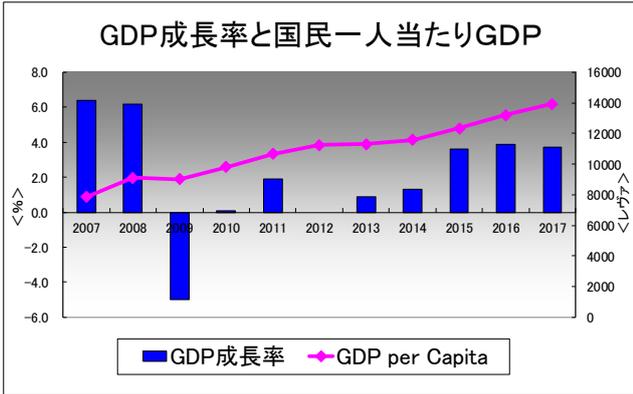
▶また28日には、パヴロヴァ大臣はブリュッセルでユンカー欧州委員会委員長と会談し、その後の記者会見では地方リーダー会議が地方自治体の代表者と、農業及び食品産業等の中小企業関係者のための会議であることに言及した。またユンカー委員長との会談では、グローバル・パートナーシップセンターは、地域のインフラ分野における経済開発を促進する目的で設立されるものであるとしつつ、ブルガリア政府としては同センターを通じてビジネスにおける欧州のルールを促進させ、それにより欧州又は西バルカンに投資する中国のビジネス関係者にもそのようなルールが周知されることになるとした。

ブルガリア内政・外交の動き（9月）

在ブルガリア大使館

1（土）	
2（日）	☆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣の第13回ドブロヴニク・フォーラム出席（於：ドブロヴニク）
3（月）	☆ボリスフ首相のモンテネグロ訪問
4（火）	☆ボリスフ首相のイスラエル訪問（－5日） ★コヴィンド・インド大統領のブルガリア訪問（－6日）
5（水）	
6（木）	
7（金）	
8（土）	
9（日）	
10（月）	
11（火）	★ゴイコビッチ・セルビア議会議長のブルガリア訪問 ★カシス・スイス外務大臣のブルガリア訪問
12（水）	
13（木）	★ブリタ・モロッコ外務大臣のブルガリア訪問 ☆ラデフ大統領の第14回ライオロス・グループ会合出席（於：リガ，－14日）
14（金）	★バッハIOC会長のブルガリア訪問（－16日）
15（土）	
16（日）	☆ヨトヴァ副大統領のトルコ訪問（於：エディルネ）
17（月）	☆ゲオルギエフ外務副大臣の韓国訪問（－22日） ☆ラデフ大統領の三海域イニシアティブ首脳会合出席（於：ブカレスト，－18日）
18（火）	
19（水）	☆ボリスフ首相の非公式欧州理事会出席（於：ザルツブルグ，－20日）
20（木）	●新3大臣の任命 ☆カラヤンチェヴァ国民議会議長のアゼルバイジャン訪問（－21日）
21（金）	☆ザハリエヴァ副首相兼外務大臣の第1回女性外務大臣会合出席（於：モントリオール）
22（土）	
23（日）	
24（月）	☆ボリスフ首相及びザハリエヴァ副首相兼外務大臣の第73回国連総会出席（於：ニューヨーク，－28日）
25（火）	●第3回南北首脳会談に関するブルガリア外務省声明の発出
26（水）	
27（木）	☆日ブルガリア外相会談（於：ニューヨーク国連本部）
28（金）	
29（土）	
30（日）	

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行，財務省（日本）貿易統計)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	Q2		
GDP成長率 (%)	1.9	0.0	0.9	1.3	3.6	3.9	3.6	3.5	3.2		
GDP per Capita (BGN)	10,673	11,229	11,310	11,577	12,339	13,206	13,939				

< 財政収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1			
財政収支 (million BGN)	-1,589.7	-262.5	-296.3	-4,560.7	-1,420.7	208.8	920.3	722.7			
財政収支GDP比 (% of GDP)	-2.0	-0.3	-0.4	-5.5	-1.6	0.2	0.9	0.7			

< 失業者数及び失業率 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep
失業者数 (千人)	342	376	386	351	329	261	232	237	231	222	211	200	189	186	184	
失業率 (%)	10.4	11.4	11.8	10.7	10.0	8.0	7.1	7.2	7.0	6.8	6.4	6.1	5.7	5.7	5.6	5.6

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep
消費者物価上昇率 (%) (前期比)	2.8	4.2	-1.6	-0.9	-0.4	0.1	2.8	0.3	0.3	-0.3	0.4	0.3	0.1	0.7	0.1	0.3
月額平均賃金 (BGN)	686	731	775	822	878	948	1,060	1,075	1,049	1,107	1,145	1,110	1,119			

< 対外債務 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2017 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul
政府部門対外債務 (million EURO)	4,205.0	4,578.9	4,062.2	6,552.0	5,989.5	7,228.8	6,327.7	6,271.8	6,243.5	6,224.2	6,236.3	6,213.4	6,183.3	6,189.5
民間部門対外債務 (million EURO)	32,089.8	33,134.6	32,873.4	32,786.4	27,506.6	26,992.6	27,069.6	27,143.6	27,158.2	27,080.8	27,010.3	26,999.2	27,292.5	27,458.4

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug
対内直接投資 (million EURO)	1,476.3	1,320.9	1,383.7	347.4	2,399.1	1,003.3	1,389.6	253.5	228.2	-3.2	2.3	73.8	276.7	219.9	
貿易収支 (FOB-CIF) (million EURO)		-4,688.9	-3,556.6	-4,020.7	-3,374.3	-2,055.3	-2,369.8	-444.3	-371.3	-346.2	-411.2	-441.6	-445.4	-380.3	-184.1
輸出 (FOB) (million EURO)		20,770.2	22,271.5	22,104.9	22,982.3	24,126.0	27,915.8	2,142.4	1,964.8	2,273.5	2,134.3	2,201.6	2,367.9	2,492.2	2,358.6
輸入 (CIF) (million EURO)		25,459.1	25,828.1	26,125.7	26,356.6	26,181.3	30,285.6	2,586.7	2,336.1	2,619.7	2,545.5	2,643.1	2,813.3	2,872.5	2,542.7